

## 第2回 田沢湖地域審議会会議録

【とき】平成18年 6月 6日(火)  
午後2時00分～午後5時00分

【ところ】田沢湖庁舎第1会議室

【出席委員】 伊藤和彦・山手祐子・八柏龍也・千葉正登・高橋正治・羽川  
芙紗子・羽根川朋幸・細川雪子・羽根川覚・小松直・高藤孝  
子・高橋達・草薙俊一 (13人)

【欠席委員】 藤村正喜・門脇隆広 (2人)

【出席職員】 高田田沢湖地域センター長、田口総務部次長、  
倉橋企画政策課長、田口総合窓口課長、藤原地域振興課長、  
田口田沢湖地域観光課長、柴田田沢出張所長、  
三浦神代出張所長、藤村企画政策課参事、  
戸村総合窓口課主査 (11人)

### 【議 事】

- (1) 総合計画アンケート調査結果について
- (2) 総合計画に関する提言について  
・田沢湖地区の目指すべき方向について
- (3) 行政改革に関する提言について
- (4) 意見交換
- (5) その他

### 《田口総合窓口課長》

開会に先立ち、4月の人事異動で新しく担当になった職員  
田沢湖地域センター長 高田光一、総務部次長 田口威徳  
事務局 戸村和子よりあいさつ

### 《田口総合窓口課長》

ただいまより、第2回田沢湖地域審議会を開会いたします。最初に会  
長あいさつ。伊藤会長が少し遅れますので、山手副会長から願いま  
します。

《山手祐子副会長》

2回目ですので、会長が来られるまで暫時ということで宜しくお願いします。とあいさつがありました

《倉橋企画政策課長》

諸連絡

・2回目の地域審議会を5月中に開催予定でしたが6月にずれ込んだこととお詫びします。

・総合計画に関するアンケートの調査を4月から5月にかけて実施した。市民2000人を対象に抽出実施したところ、951人から回答があり45%ぐらいの回答率でした。アンケートを取りまとめる側からは、50%ぐらいを目安にしておりましたが若干届きませんでした。が、サンプルとしては有効であると伺っている。ホームページ、広報誌上でも市民の方から、総合計画に関するご提言、ご意見をいただいている。今後の総合計画に活かしていきたい。

・昨年の年度末3月末に集中プランという形で仙北市向こう5年間の行政改革の取り組み目標を数値で表したものを公表しております。みなさまにも配布しております。行政改革に関しては地域審議会の審議事項ではないが、せっかくの機会であるので併せてご意見を伺いたい。行政改革に関連しまして、構想計画と併せて9月をめどに行政改革大綱として作成して行政改革に含んでいきたいと思う所存です。行政改革と関連いたしまして一部組織機構の見直しを現在検討しているところであり、6月8日の議会の全員協議会へ一部改正ということで、話し合いをしたいという段取りで進めているところである。

・次回の開催は7月中旬を予定している。その時は基本構想の原案をみなさんにお示ししてご意見を伺っていきたいと考えている。

《田口総合窓口課長》

議事に入りますのでここからは、山手副会長のほうからお願いします。

《山手祐子副会長》

(1)の総合計画アンケート調査結果について、企画政策課から説明していただきます。

《藤村企画政策課長補佐》

集計結果の資料に基づき詳しく説明ありました。

(説明の要約)

このアンケートは18歳以上の市民の中から無作為に2,000人を抽出し調査を行なった。4月21日に発送して5月の連休明けで締め切りとして951人から回答をいただいた。その結果を取りまとめたものである。アンケートの結果、性別、年齢別、年代別、地域別の回答割合がわかるので、たとえばこの地域の行革を考えているか、年齢別では若い人たちはどう考えているかこの集計にはでていないので、今後そういう分析をしながら総合計画の作成に反映していきたい。

《田口総合窓口課長》

説明が終わったところで、会長がお見えになったので会長のあいさつをいただいて、議事を進行して行きたいと思います。

《伊藤和彦会長》

遅れて申し訳ございません。(2)の総合計画に関する提言について、進めていただきたいと思います。

《倉橋企画政策課長》

質問は(1)と(2)をあわせて、後でご意見を伺いたいのでよろしくお願ひします。資料にそって「仙北市総合計画」(構想案)の説明をした。

《伊藤和彦会長》

(1)(2)についての質問と「仙北市総合計画(構成案)について特に町づくりの提言をお願いしたい。

《細川雪子委員》

今回は計画策定アンケートということのようですが、次回からその計画が実施されている段階で、どういう状況にとらえられているかの第2次アンケートの実施予定はあるか。

《倉橋企画政策課長》

アンケートを取ったばかりですので今のところまだ考えていません。

《細川雪子委員》

アンケート方法は異なってもいいので、どのように受けとめられているか知りたいので、計画されるようでしたらお願いしたい。

《伊藤和彦会長》

アンケート調査の中身について意見ありましたらお願いします。

《高橋達委員》

アンケート結果を早めに配布してもらってよかった。配慮に感謝します。一通り目を通したが45%の回収率ということでしたが、それで十分有効な評価になるのかと思って見ていた。半分以下でも有効ということでしたが、問3-2・問3-3の満足・不満足のところでは、大方そうだろうと思った。動向確認として十分有効で使える結果であるというばかりでなく、アンケートを出した側としてどう受けとめているか。

《倉橋企画政策課長》

目標は半分以上の回収を見ていたがそれに至らなかったということは集約の仕方、計画に問題があったように思う。反省しています。随時地域別に集計作業をしているところですが、ある程度傾向・市民の受けとめ方がアンケートを通じて何うことができたのではないか。これがすべてではないと思います。地域審議会もそうですが、いろんな組織・地域の声を聞きながら、計画を進めて行きたい。

《伊藤和彦会長》

アンケート調査を踏まえて田沢湖地区について意見を出してもらいたい。

《高橋正治委員》

田沢湖地域を見ると、森林面積が5万2千ヘクタールあり、そのうち国有林が8割である。その国有林を活用して観光と結びつけることに有効味があるのではないか。

《草薨俊一委員》

地域に密着した教育を重視した町づくりを考えた方がいい。

《伊藤和彦会長》

医療関係では田沢湖病院が新しくなり施設は充実したが、アンケート結果は充実されていないの結果であるが把握しているか。

《倉橋企画政策課長》

田沢湖病院のことでいうと医師不足で、現実問題として手術室は使っていない状態である。ちょっとした怪我で手術が必要でも角館病院へ搬送しなければならないと伺っている。常勤の医師がいないのが問題かと思う。これは全体にいえることです。市内に市立病院が2つあるということで、位置づけをどうするか大きな問題である。角館病院の施設改修が必要であるといわれているが、財政的なこともありますし、仙北組合病院の改築の話もでておりました、ひじょうに公立的な中でどういう医療体制をとったらいいのか、緊急な問題ではありますが、難しい問題でもある。

《羽川芙美子委員》

田沢地区も診療所がなくなるような話が聞こえてきますが、住民の高齢化が進み不安を感じておりますので、診療所の存続をお願いしたい。

《草薨俊一委員》

関連してですが、病院間の連携、交流を充実して欲しい。

《高橋 達委員》

合併の効果を活かす町づくりをしたらいいと思う。施設を有効利用し、合併して良かったと思うような町づくりを目指すことが大事である。市立の病院が2つあり、建物は立派だが医師がいない。一方は施設は悪いけど医師のいるほうに患者が集まる。同じ市の施設だったらもっと充実した活用の仕方があるのではないか。現実にはいろいろな問題もあり難しいと思うが。今の段階では合併効果は難しいが、将来的には出てくると思う。

《羽根川 覚委員》

施設の有効利用で田沢地区に体育館が3つあるが、その中の1施設の床を剥がして冬期間も土面を使えるようにしてはどうか。お金はかかると思うが。また旧田沢中学校の施設を活用しないでそのままにしているのは、もったいないので、財産区よりほだ木を提供してもらい椎茸・なめこを栽培するなど、生徒の体験学習のば場として活用できないか。

《伊藤和彦会長》

生きた教育の手法が施設利用に必要なだという形で盛られればいいが。合

併してある種の有効利用も必要ですが、思い切って廃棄処分し経費節減も必要である。施設を100%利用しようとする、経費が嵩む場合もある。なんのための統廃合なのか解らなくなる。また地域の承諾を得る必要がある。

《草薨俊一委員》

これからは空き校舎も増えて行くでしょうから、みんなが納得するよう行政にばかり任せないで、自分たちの意見を反映させないと。

《伊藤和彦会長》

議会の報酬も上がったようですので、それに見合うような提言、発言し議会を活性化してもらいたい。皆さんに傍聴も頑張ってもらいたい。

《小松 直委員》

アンケート調査についてもだいたいこういうものでないかという感じを受けています。総合計画の構成案についても同じです。今後アンケート調査結果なりを参考に進めていくと思うが、その他我々地域審議会、あるいは議会において、旧田沢湖町の場合ですとこういう計画を策定するにあたって、地域の要望や、各種団体の意見を参考にして策定したが、今後そんなことを考えているかお聞きしたい。今、田沢地区のことで言われていたが、地域には地域の問題を抱えているので、それを行政改革だとか合併効果だとかで切り捨てるのは酷だと思う。有効利用できるものは聞き入れながら、これからの計画を立てたほうが良い。今後の計画について教えて欲しい。

《倉橋企画政策課長》

今のところ地域から直接意見を聞くことは考えていません。各種団体の皆さんには、原案を説明して意見を伺う機会を設けたいと思う。計画策定だけに限らず、地域懇談会的なものを今後仙北市としてどのような方法がいいか考えていますが、まだ未定である。なにぶんにも体制自体決まっていないので、そういう時間を取れない状態です。地域で要望があった時は市長・係りが地域に直接出向ている。市の施策としてはない。

《小松 直委員》

地域の意見なり要望だけでなく、いろいろな意見を取り入れたうえで納得できる結論を出してもらいたい。我々も責任重大ですが我々だけで決

めた、議会だけで決めたというのでなくして欲しい。アンケートも実際のところ、出し方にもよるが《どちらともいえない》・《わからない》の回答がものすごく多い。合併して最初の総合計画なので、できるだけ地域住民の意見を聞く方法を取って欲しい。我々が意見を出すのは田沢湖地区のことについてだが、実際に説明するときには市全体の財政状況での説明になるので、財政状況が全然見えない中で意見・要望をだしてもいいものか。

《伊藤和彦会長》

機会があったら解る範囲で財政状況を教えて欲しい。

《小松 直委員》

各地域の住民の声が反映しにくくなったということで地域審議会が設置されている。、根本的な地域の均衡ある発展のためとなっているが、我々が全体像も何も解らないままで均衡ある発展になっているか疑問である。財政的なことをある程度わかっているほうが良いと思う。

《高田センター長》

財政の話がでましたが、我々が一般的に財政の善し悪しを判断するとき、経常収支比率ということばを使っているが、80%を超えると問題だと言われている。仙北市の18年度予算は99.3%で自由に使える財源は、0.07%しかない厳しい状況です。秋田県が88%であり日本全国の竈が傾いているということです。これから財源の裏付けがないので、次の集中改革プランですがそれを踏まえた行政改革をしていかないと、どうにもならないということです。

《伊藤和彦会長》

つぎに（3）の行政改革に関する提言について進めます。

《藤村企画政策課長補佐》

集中改革プランについて詳しく説明ありました。

《羽根川 覚委員》

第3セクターの内陸線ですが、年間6千万ぐらい支出しているがこれからもずーと続くのか。

《倉橋企画政策課長》

内陸線は毎年3億円近い赤字で欠損額がでていく。それを県と沿線市町村が補填している。市町村合併することにより北秋田市と仙北市と二つだけになってしまった。田沢湖町時代は付き合いでなんとなく出してきたが仙北市になってからは、そういう感じでいられなくなった。乗客は最盛期の半分ぐらいで50万人台である。このままでは存続が不可能である。今後5年間で50万人を82万人に増やさないと内陸線存続は不可能であり、そのため再生計画を策定してスタートしたわけです。欠損額3億円を5年間で半分の1億5千万円にする計画である。5年間で1億5千万円は、これをバス転換した場合も同じくらいかかるという額である。毎年3千万円の欠損額を減らしていくということで、赤字補填分は3千万円減らした額を当面は県企画振興局でみる。これを超えた部分があると危険がありますので、内陸線再生計画がスタートしたが計画どおりいかないと存続は困難である。こちらと阿仁、鷹巣は別々にスタートしたので北側の施設の老朽化が進んでいるところもあり、安全対策が必要であるということで県が調査しており、それによっては負担がさらに多くなる可能性がある。先行きがひじょうに厳しい状況である。西木地区の思いもあり、そうした意向も汲んでいかなければならない。仙北市が関わっている第3セクターの6つの観光施設も経営が安定しているわけではないので、こういった部分も統廃合を含め検討していかなければならないことです。今のところ具体的に対策というところまでいっていないので当面補填していかなければならない。

《伊藤和彦会長》

年間6千万円の額ですが、ニコニコバスとか、羽後バスとか市民の生活交通手段に換算すると6千万円はどのくらいになるか。

《倉橋企画政策課長》

羽後交通生活バス路線仙北市全体で3千万円ぐらいです。市営角館スマイルバスは2千万円近い、田沢湖の市営バスも500万円ぐらいの持ち出しがある。収入もあるわけだがそれぞれかなり経費負担になっている。

《高橋正治委員》

行政改革で計画の中に平成18年8月をめどに指定管理者制度導入でかなりの業者が載っておりますが、実際の実施時期は何時になるか。

《倉橋企画政策課長》

指定管理者制度については、これまで管理者としている施設については、平成20年度までは委託先に引きつづき指定管理者としてお願いします。

《伊藤和彦会長》

指定管理者にする判断基準はあるのか。

《倉橋企画政策課長》

応募する方もリスクはある。

《伊藤和彦会長》

(4)の意見交換に移ります。

《山手祐子副会長》

田沢湖地区だけについて意見を述べればいいのか。地域エゴにならないか。

《小松 直委員》

市長からの諮問に応じて我々がいるので、田沢湖地区について意見を述べればよいと思う。

《倉橋企画政策課長》

次会は、7月中旬（構想の原案）の午後の予定です。

《高橋 達委員》

地域の実情に詳しい人が実態にあった意見を述べるのであって全体的にといいながら、地域のことはそれぞれの地域で考えればよいのでエゴではない。

《倉橋企画政策課長》

地域審議会の趣旨はそういうことです。

《高藤孝子委員》

財政状況が厳しいということですが、現状の中で出来ることを考えていけばいい。方向転換した考え方をすればいい。

《羽根川朋幸委員》

アンケートの結果ズーと住み続けたい、当分住み続けたいが大部分なので、住みやすいように行政で企業誘致などの方法で考えて欲しい。

《八柏龍也委員》

仙北市行政改革集中プランの再度実施計画などあるか。

《倉橋企画政策課長》

9月に行政改革大綱を作成する。

《八柏龍也委員》

行政改革で職員数については市の特徴があるので他の市と同じでなくてもいいと思う。現状を把握しながら改革して欲しい。

《草薨俊一委員》

この会に総務部長も出席すべきである。

《伊藤和彦会長》

必要あるときは、出席してもらいたい。これで会を閉じたいと思います。